©2016 国立大学法人北海道大学

一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：
グローバル・キャリア・デザイン２

第 16 回 FSP アジア　全体報告書

期　間：2016 年 8 月 27 日～9 月 11 日

訪問先：シンガポール、ベトナム（ホーチミン市）

編　集：第 16 回 FSP アジア　記録広報班

（笹木健太、奥地諒太、草野敦大、奥田晃崇）

©2016 国立大学法人北海道大学

目次

・ファースト・ステップ・プログラム（FSP）について.....2
・参加メンバー紹介.....3
・研修日程.....5
・大学・学校訪問
シンガポール国立大学(NUS).....7
Yale-NUS Collage.....9
NGEE ANN POLYTECHNIC.....10
ベトナム国家大学ホーチミン校.....11
チャンダイニア gifted 高校.....12
・企業・組織訪問
北海道 ASEAN 事務所.....13
早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所(WABIOS) 14
CHUGAI PHARMABODY RESEARCH PTE. LTD.....15
PRIME BUSINESS CONSULTANCY PTE. LTD.....16
日本航空株式会社シンガポール支店.....17
燃料電池研究所（JICA プロジェクト）.....18
Seed to Table.....19
住友商事株式会社（CJ-SC GLOBAL MILLING）.....20
電通メディアベトナム.....21
Pizza 4P's.....22
・自由課題活動.....23
・体験談.....26
・次回参加者に向けて・アンケート結果.....27
・まとめ.....28

©2016 国立大学法人北海道大学

ファースト・ステップ・プログラム（FSP）について

ファースト・ステップ・プログラム（FSP）とは、北海道大学の「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）：グローバル・キャリア・デザイン」として開講する授業科目である。なお、FSP は、海外に向けての第一歩という意味を込めた略称である。

FSP は、夏季と春季にそれぞれ開講され、2 単位が付与される。事前授業、2 週間の海外研修と事後授業が主な内容である。海外研修では、現地での企業訪問や協定校での講義受講、学生交流の機会が提供され、これらの経験を通して広い視野の獲得を目指す。また、在学中の交換留学や海外インターンシップなどの海外プログラムへの参加への第一歩となる。

本授業の対象は、北海道大学に在籍する学部 1,2 年生である。

この報告書では、第 16 回 FSP アジアについての活動を取り上げる。

<u>概要</u>

海外研修期間：2016 年 8 月 27 日（土）～9 月 11 日（日）

渡航先：シンガポール共和国、ベトナム社会主義共和国（ホーチミン市）

参加費用：18 万円程度

【費用に含むもの】

航空運賃、宿泊費、車両借り上げ代

奨学金：JASSO 奨学金（10 万円）が支給される可能性あり。

（奨学金受給要件を満たす学生は、JASSO または本学フロンティア基金新渡戸カレッジ奨学金の受給が可能である。）

参加人数：19 名

©2016 国立大学法人北海道大学

参加メンバー紹介

リーダー・サブリーダー　グループ全体の取りまとめを行った。

経済学部１年　金井 一真	総合理系１年　上川　伶	水産学部１年　妻野 颯太

総務企画班　研修のしおり作成、学生交流の企画運営を行った。

農学部２年　川辺 晃太郎	農学部２年　片岡 奈々	経済学部１年　宮脇 由明

プレゼンテーション班　現地の学生に北海道や北大についてプレゼンを行った。

経済学部２年　中野 寛太	総合文系１年 篠田 まどか	総合文系１年 山口 大樹

総合理系１年 大谷 高史

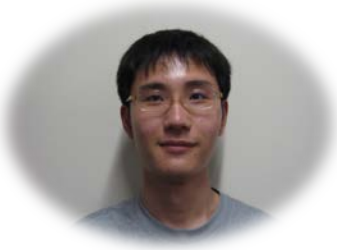
©2016 国立大学法人北海道大学

企業訪問班　訪問企業・組織の調査やしおり・議事録の作成を行った。

医学部 1 年　岩見 謙太朗	経済学部 2 年　珍名 伸明	経済学部 2 年　内海 新平

農学部 2 年　藤原 成美	医学部 1 年　鳥井 沙南

記録広報班　Facebook の更新、全体報告書の作成、帰国報告会での発表を行った。



総合理系 1 年　草野 敦大	工学部 2 年　笹木 健太	工学部 2 年　奥田 晃崇

工学部 1 年　奥地 諒太

FSP では上記のように一人一つの役職・班に所属し、活動を行った。

©2016 国立大学法人北海道大学

研修日程

日付	曜日	都市	活動内容
８月 27 日	土	札幌－羽田	15:00 新千歳空港（JL514）⇒ 16:35 羽田空港 着
28 日	日	羽田 ⇒シンガポール	00:05 羽田空港（JL035） ⇒ 06:15 シンガポール/チャンギ国際空港 着 チャンギ空港から借上バスにて宿泊先へ移動 08:30-09:30 **オリエンテーション** 09:30 以降 自由課題活動 18:00 全員で夕食
29 日	月	シンガポール	**大学・学校訪問①** 10:00-17:00 シンガポール国立大学（NUS）
30 日	火		**大学・学校訪問②** 10:00-17:30 Yale-NUS College
31 日	水		**企業・組織訪問①** 10:30-12:00 北海道 ASEAN 事務所 **企業・組織訪問②** 15:00-16:30 早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所（WABIOS）
９月１日	木		**企業・組織訪問③** 10:00-12:00 CHUGAI PHARMABODY RESEARCH PTE. LTD **企業・組織訪問④** 15:00-18:00 PRIME BUSINESS CONSULTANCY PTE. LTD
２日	金		**大学・学校訪問③** 10:30-16:00 Ngee Ann Polytechnic
３日	土		**FSP アジア振り返りミーティング①** 09:00-11:00 午後： 自由課題活動
４日	日	シンガポール ⇒ホーチミン市	**企業・組織訪問⑤** 09:30-11:00 日本航空株式会社シンガポール支店 13:10 チャンギ国際空港（VN650） ⇒ 14:15 タンソンニャット国際空港 着 午後： 自由課題活動

©2016 国立大学法人北海道大学

			18:00 全員でオリエンテーションと夕食
５日	月	ホーチミン市	**大学・学校訪問④** 08:00-17:30 ベトナム国家大学ホーチミン校
６日	火		**企業・組織訪問⑥** 10:00-11:30 燃料電池研究所（JICA プロジェクト） **企業・組織訪問⑦(1)** 16:00-18:00 Seed to Table 代表理事 講話
７日	水		**企業・組織訪問⑦(2)** 09:00-14:30 Seed to Table プロジェクト訪問 18:30-21:00　北海道人会との懇談
８日	木		**企業・組織訪問⑧** 10:00-11:30 住友商事（CJ-SC GLOBAL MILLING） **企業・組織訪問⑨** 14:00-15:30 電通メディアベトナム **企業・組織訪問⑩** 17:30-20:00 Pizza 4P's （夕食と講話）
９日	金		**社会科見学①** 10:00-11:30 クチトンネル 14:00 ホーチミン市帰着後、ランチ **社会科見学②** 15:00-17:00 戦争証跡博物館
10 日	土		**大学・学校訪問⑤** 09:30-12:00 チャンダイニア gifted 高校 **FSP アジア振り返りミーティング②** 14:00-18:00 （事後の授業①）
11 日	日	ホーチミン市 ⇒成田・札幌	08:20 タンソンニャット国際空港（JL750） ⇒ 16:00 成田空港 着 （４名は成田で解散） 18:45 成田空港（JL3049） ⇒ 20:30 新千歳空港 着、解散

※表記載時刻は現地時刻である。

以上の日程で、企業・組織訪問、大学・学校訪問、自由課題活動の３つを中心に行った。自由課題活動は各日研修終了後、門限時刻（日によって異なる）まで行うことができた。

©2016 国立大学法人北海道大学

大学・学校訪問

シンガポール国立大学(NUS)

Associate Professor の Deborah Shamoon 先生の授業への参加

Deborah Shamoon 先生による授業「Samurai, Geisha, Yakuza as Self or Other」に参加させていただいた。内容は、井上雄彦による人気漫画バガボンドを用いた侍の解説など、日本人にとって馴染みやすいものであった。フィクションにおける侍と現実における侍の違いなどが写真を用いてわかりやすく解説された。この漫画における天才と凡人の対比構造など漫画自体の解説も含んでおり、現代の日本文化自体も同時に説明がされた。漫画という題材を用いることで、シンガポールの学生にとって馴染みの薄い日本文化を解説するスタイルで授業は進んでいった。NUS の学生が、先生の漫画に関する質問によく答えており、漫画を読む学生も多いことを実感した。受講生の様子としては、日本人学生に比べ積極的に発言していくのだろうという予想をしていたが、日本人同様シャイで発言にはやや消極的な印象を受けた。ノートを手書きで取る学生は少なく、ノートパソコンを使用する学生が多数いたのが印象的であった。

NUS の学生によるキャンパス案内

日本語の授業を取っている NUS 学生に校内を案内してもらった。NUS の学生は、英語はもちろん、日本語が堪能で圧倒された。University Town の学生食堂に向かい現地学生とともに食事をとった。インド料理や日本料理、シンガポール料理、中華料理など国際色豊かな食が楽しめる食堂であり、バリエーション豊かなメニューには驚かされた。フードコート形式の食堂であり、各々食べたい料理を選び昼食を楽しんだ。一食あたりの値段は、北海道大学の学生食堂と比較して、やや高いように感じた。University Town には学生食堂の他、自習室やパソコンルームといった勉強施設、またプールやクライミングウォールといった遊びに溢れた施設が充実していた。NUS は勉強する環境が非常に整っているとの印象を受けた。大学施設の充実が、世界中から優秀な学生、研究者を集める秘訣なのではないかと思われる。NUS 学生との交流の中で、感じたこととして、日本文化についての知識が国際的な交流の場では非常に重要だということである。日本語の授業を取っている学生は、漫画やアニメといったサブカルチャーや日本のポップミュージックに興味を持ち、豊富な知識を持っていたという印象を受ける。また、日本食についての関心は多くの人に共通するようで、こういった自国の知識を深めていくことが、外国人とのコミュニケーションにおいて重要なのではないかと考えられる。

©2016 国立大学法人北海道大学

(NUS-UTown 内のフードコートにて NUS の学生と昼食)

(NUS 学生との集合写真)

(FSP アジアメンバーによるプレゼンテーション)

©2016 国立大学法人北海道大学

Yale-NUS College

Yale-NUS College での学生交流、キャンパス案内

Yale-NUS College の寮や学食を学生に案内してもらった。ここで案内してくれた Yale-NUS 学生も日本語が非常に堪能であった。案内と同時に、この大学の特色などについて語ってもらった。学生は Saga Elm Cendana の３つの寮に振り分けられるそうだ。各寮にはそれぞれ学生交流室や食堂といった施設がある。現在の４年生が第１期生ということもあり、非常に期待されているそうである。アトリエや音楽室、フィットネスジムなど多様な施設が充実していた。サッカーボードゲームなどのレクリエーションのためのものが多く置かれていたのが印象的であった。学校内は雨に濡れずに全ての場所に移動できるようになっており、非常に考えられた造りの建物であるように思われた。小規模な大学であるということもあり、案内中にすれ違う学生と声を掛け合うなど、学生全体が知り合いであるようなアットホームな雰囲気が感じられた。また、学生交流では、プレゼンテーションとフルーツバスケットなどのレクリエーションが行われた。

授業、ワークショップへの参加

FSP アジアメンバーはそれぞれグループごとに分かれ、授業やワークショップに参加した。授業に参加するグループでは、化学や数学などの授業に参加した。ワークショップでは、英語での履歴書の書き方を学んだ。各々英語で行われる授業に苦戦したものの、普段の大学生活にはないような体験を得ることができた。

（Yale-NUS College の学生交流室にて）

©2016 国立大学法人北海道大学

NGEE ANN POLYTECHNIC

学生交流

日本語の授業を履修している学生との交流であり、両校の学生による出し物、プレゼンテーションが行われた。北海道大学の紹介に関するプレゼンテーションでは、キャンパスの雪景色や日本食に関しての部分が好評であったように見受けられた。NGEE ANN POLYTECHNIC は義務教育を終えた人が通う、多様な学問を学ぶことのできる総合技術専門学校に当たる。プロモーションビデオでは、工学系や人文系から映画といったものまで多種多様なコースが紹介された。NGEE ANN POLYTECHNIC の学生は日本語でシンガポールに関するクイズを出題した。シンガポール内でのマーライオンの数や映画の料金などの難問に、FSP アジアメンバーは苦戦を強いられた。学生交流においては、グループごとに分かれて折り鶴を作った。こちらが折り方を教えなくても、上手に折ることができる学生もいて驚かされた。

アウティング

NGEE ANN POLYTECHNIC の学生とともにグループに分かれて、シンガポール内の名所などを案内してもらった。その中で、シンガポールには日本の文化が浸透していると感じた。デパートなどでも、たこ焼き屋や日本食レストランなどが多く見受けられ、その他日本に関するものが多くあった。多くのグループでは、アウティング時間終了後も、両校の学生たちは行動を共にし、楽しい時間を過ごすことができた。

（NGEE ANN POLYTECHNIC の学生との集合写真）

©2016 国立大学法人北海道大学

ベトナム国家大学ホーチミン校

ベトナム語講座、ベトナムの歴史の授業

ベトナム国家大学では、ベトナム語講座、ベドナムの歴史に関する授業を受講した。ベトナム語はイントネーションで単語の意味が変わるという日本語にはない複雑な発音であるため、FSP アジアメンバーは苦労した。それでも、簡単な挨拶や自己紹介などは習得することができたと思われる。先生に当てられ、上手に発音することができた者には、ご褒美が与えられるなど盛り上がった。ベトナムの歴史の授業では、ベトナムの文化も交えながらの解説が英語で行われた。研修中ベトナム戦争に関する施設を訪問する機会があったが、訪問前にベトナム戦争に関してやそれ以外のベトナムの歴史を知ることができた。またベトナムは日本と縁が深く、歴史を認識する重要性を感じられた。

学生との交流

国際交流クラブのメンバーとの学生交流が行われた。両校による英語を用いたプレゼンテーションや、ベトナムに関するクイズ、ゲームをしたほか、南国ならではのカットフルーツを振舞っていただいた。クイズ、ゲームにおいては、国際交流クラブの学生を交えて４つのグループを作り、互いに相談をするなどして交流を深められた。ベトナムに関するクイズにはベトナム特有の服装や、ベトナムの名所などが出題された。また、ゲームでは、ベトナム語で書かれたベトナムもしくは日本語の曲を覚え、グループごとに全員の前で発表を行った。ベトナム文化を学んだり、覚えたばかりのベトナム語を使って歌を歌ったりして、勉強になったとともにとても楽しい時間を過ごすことができた。

（ベトナム国家大学ホーチミン校の国際交流クラブのメンバーとともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

チャンダイニア gifted 高校

学生との交流

チャンダニア gifted 高校の日本文化クラブとの学生交流が行われた。日本文化クラブの学生には「北海道大学」と漢字で書かれた手作りの旗を用意してもらうなどのおもてなしをしてもらい、とても楽しく交流ができた。ホーチミン市の中心部に位置するこの高校はベトナムで最も英語教育の進んだ学校の１つであり、学生は皆英語を流暢に話していた。カリキュラムに組み込まれている授業ではないが一部の生徒がエクストラで取っている授業は完全に英語で行なわれているとのことである。同校は、日本で言ういわゆる中高一貫校と全く同じではないが、combined Secondary and High School であり、そのため、今回の訪問では、中学生も多数交えての交流であった。チャンダニア gifted 高校の紹介ビデオや両校によるプレゼンテーション、交流ゲームや折り紙体験などが行われた。また、振舞われたドーナツを食べながらの談笑を楽しんだ。

チャンダイニア gifted 高校での交流を通して感じたことは、日本の中高生よりはるかに異文化圏の人々とのコミュニケーションに積極的であったということである。我々日本人メンバーにも緊張からか話し出せないメンバーがいたが、日本文化クラブの学生が日本文化や生活に強い関心を持って質問したりしてくれたので、すぐに打ち解けられた様子であった。また、日本文化については、ゲームやアニメを中心に、我々ですら知らないようなことを逆に教えてもらったりもした。我々も日本文化について、さらに関心を持てれば、会話の幅が広がるのではないかと感じた。

（チャンダイニア gifted 高校の学生とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

企業・組織訪問

北海道 ASEAN 事務所

副所長の髙橋 明史様によるご講話

北海道 ASEAN 事務所に勤務なさっている髙橋様に、北海道 ASEAN 事務所や髙橋様の御経歴についてお話をして頂いた。北海道 ASEAN 事務所は、北海道の食の輸入拡大、北海道への観光客誘客、道内への投資促進の３つをテーマに、シンガポールを含む ASEAN における北海道ブランドの更なる浸透を図ることや、逆に北海道内に向けて ASEAN の食や観光、投資の情報を発信することにより、双方向の経済交流支援を進めることをねらいとして活動している。髙橋様は北海道大学の御出身で、大学時代は海外で働くということに漠然とした憧れがあったものの、特に意識はしていなかったそうである。北洋銀行の道内支店に勤めており、英語試験の出来が良かったことが、海外赴任の一因かもしれない、とお話しされた。特に英語の勉強に力を入れていたという訳ではないそうで英語には苦労されたそうである。学生時代にやっておくべきこととして、ご自身の経験を踏まえ、英語と専門の勉強を一生懸命やっておくべきだというお話を頂き、私たちの今後の日々の学習の糧となった。

FOLLOW ME JAPAN PTE.LTD.会長の西村 紘一様によるご講話

FOLLOW ME JAPAN PTE.LTD.の西村様にも特別にお時間を頂いてお話をしていただいた。学生時代、西村様は世界を見るという目的のもとで、現在ほど発展する以前のシンガポールに長期に渡って滞在された経験があり、シンガポールについて、歴史、国防、教育、文化など様々な面から紹介していただいた。当時のシンガポールでは言葉が通じず、現在とは違い、反日的感情が強く残っていた頃なので大変な苦労をなさったそうである。シンガポールは、何もない国だから、今あるものを創意工夫して使うのがすごく上手だというお話が印象的であった。広い視点に立って世界を見ることはどういうことかをご講話を通して知ることができたと考えている。

（北海道 ASEAN 事務所近くのフードコートのラウ・パ・サにて髙橋様とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所(WABIOS)

Principal Investigator の宗 慶太郎先生、Assistant Professor の新井 敏先生によるご講話

シンガポールに拠点を構える早稲田大学の研究所 WABIOS に訪問し、宗先生と新井先生からシンガポールにおける研究や暮らしなどについてお話をしていただいたり、研究室を実際に見学させていただいたりした。なぜ早稲田大学がシンガポールに研究所を構えて研究を行っているのかを我々は疑問に思っていたが、それについて、シンガポールは国策として医療ハブ国家を目指しており、そのためにバイオポリスというバイオメディカル分野の国際的な研究拠点が設立され、共同研究が生まれやすいためであるという紹介をしていただいた。そのため世界中から優秀な研究者が集結しており、多大なメリットがあるそうである。研究内容の紹介として、宗先生の学生時代の研究課題である人工血液に関するものや副作用を少なくするため特定部位に限定して薬の効果を集中させるドラッグデリバリーシステムについて説明していただいた。新井先生はシンガポール在住６年目だそうで、シンガポール事情について詳しく紹介してくださった。シンガポールでは、ジョブホッパーと呼ばれる転職を繰り返す人が、日本とは異なり、悪い評価を受けないそうである。給与を高くするため、自分の能力に応じて転職を繰り返すのは普通の考え方であるようだ。シンガポールの暮らしとしては、家賃や食費が高いなどの苦労もあるそうだ。

お話を伺って感じたことは、海外で研究活動をする上では、その土地の強みを生かすことが重要であるということである。海外で研究職に就きたいと考えている学生にとって、土地の強みを生かすことのメリットや研究室の様子を知ることができたことは将来を考える上で参考になる部分が多かったように感じている。

（WABIOS にて）

©2016 国立大学法人北海道大学

CHUGAI PHARMABODY RESEARCH PTE. LTD

CEO の松原 亨一様、研究員の大倉 有生様、研究員の津嶋 崇様のご講話

中外製薬のシンガポール子会社である CHUGAI PHARMABODY RESEARCH PTE. LTD に訪問し、松原様、大倉様、津嶋様からご講話を頂いた。製薬研究分野において、シンガポールと日本では、研究スピードや人材の流動性が異なるというお話をしていただいた。シンガポール政府は、バイオメディカル分野が今後重要になってくると考えており、多大な予算を投資している。CHUGAI PHARMABODY RESEARCH PTE. LTDのあるバイオポリスは、この分野における研究開発拠点である。このような土地で研究するメリットは、多国籍であることを活かして、複数の国の研究者との間で意見が交換できるという点であるそうだ。現地雇用のスタッフとは、熱心に教育しても別の企業へ転職してしまうなど、価値観の違いからの苦労も多いそうである。英語についての苦労も絶えないそうで、若いうちから英語の勉強に力を入れるべきだとの助言をいただいた。

お話を伺って感じたことは、前頁の WABIOS と同様に、土地の強みを生かして製薬の研究を行っていらっしゃるということである。参加学生の中には、今後研究活動を行うために海外留学をしたり海外の研究機関で働いたりしてみたいという学生もいたが、留学先や勤務先を選択する際には、その地域はどのような産業、研究に力を入れていれており、そこで研究を行うメリットをしっかりと考えたうえで選ぶ必要があるというように、この度のお話を受けて感じた。

（CHUGAI PHARMABODY RESEARCH PTE. LTD にて）

©2016 国立大学法人北海道大学

PRIME BUSINESS CONSULTANCY PTE LTD

Managing Director の川村 千秋様のご講話

プライムビジネスコンサルタンシーManaging Director の川村様にお話をしていただいた。川村様は、シンガポールに進出したいと考えている日本企業のコンサルティングをなさっている。郷に入れば郷に従えということを実践することが大切であるそうだが、顧客企業にシンガポールの考え方をなかなか受け入れてもらえないことも多く、苦労するそうだ。どうしても日本企業は、現地駐在員を増やすなど、現地に根付かせるのと逆方向の行動をしてしまい、失敗することが多く、説得するのに苦労なさっているとのことである。日本企業は、シンガポール人の就職先としては非常に人気が低く、シンガポールに根付かせるために、日本企業の非効率な慣習を見直すなど工夫を凝らしているそうだ。キャリアデザインや大学時代にやっておくべきことについては、自分のやりたいことを徹底的に突き詰めて考えていくことが大事だということを強調してアドバイスしてくださった。英語に関しては、日本企業は、実務を重視するあまり英語力を軽視する傾向があり、英語ができなくても仕事ができればいいと考えがちであるそうだが、このことについて、「言葉が通じない上司の元で、仕事がしたいと思いますか」とおっしゃった。自分の仕事の説明が通じない上司の元では、怖くて仕事なんてできないとのことである。川村様は、異国から来た自分を受け入れてくれ、そこで仕事をさせてくれるシンガポールに貢献していきたいとおっしゃっていた。

ご講話を通して、海外においても含め、働く際に心得ておくべきことを学ぶことができた。特に、自分の核を持って世界で生きるべきであるということについては、社会に出て働くようになってからはもちろんだが、学生生活においても、学業や課外活動に生かせるのではないかと感じた。

（川村様とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

日本航空株式会社シンガポール支店

シンガポール支店長の山下 康次郎様のご講話

日本航空のシンガポール支店長を務める山下様からは、大学四年間での過ごし方を自分自身でしっかりと考え、自分のやりたいことを意識した上で職業を選択すべきだというお話をしていただいた。これは、この研修の重要な目的の一つであるキャリアデザインについて考えさせられるものであった。山下様ご自身、以前の仕事でディーラーとして成功を収めているにも関わらず、日本航空に転職したという経緯をお持ちで、それを踏まえたうえで上記のようなアドバイスをくださった。このことから、将来について具体的なイメージを気づけていない人にとってのみではなく、将来について定まった指針を持っている人にとっても、自分の興味関心を再考し、その職業、進路を選ぶことによって、自分の人生を満足に過ごすことができるか、自分の使命を全うできるかを考えることで、適切な進路を自分で判断して切り開いていく必要性があるということを強く感じた。また、日本航空株式会社の企業理念として、社員の幸せが顧客の幸せよりも先に来ることや、企業は利益を出さないと存続できず、存続出来なければ社会貢献も出来ない、等々、企業のあり方について非常に考えさせられるお話を頂いた。また、FSP アジアメンバーが感心させられたシンガポールの教育のマイナスの面についても紹介してくださった。シンガポールの教育は優秀な人には有用で効果的であるが、本質を理解する力が弱いと主張だけが強くなるリスクを抱えている、と語って下さった。山下様からのお話を伺い、参加生一同、自分のやりたいことの原点に立ち返って自分の将来を再考する手がかりを得たのではないかと思う。

（チャンギ国際空港にて山下様とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

燃料電池研究所(JICA プロジェクト)

JICA プロジェクト業務調整員の中山 隆二様のご講話

ベトナムのＪＩＣＡプロジェクトである燃料電池プロジェクトに訪問し、中山様からご講話を頂いた。中山様は、以前に青年海外協力隊として活動しており、海外で働くことや国際支援に興味を持つ者が多い FSP アジアメンバーにとって勉強になるお話を多くしていただいた。青年海外協力隊で、短期プログラムにおいて、現地で貢献するためには、ある程度の経験や専門知識が必要など、実際の活動を踏まえての貴重なお話していただいた。また、中山様の大学時代は、勉強一辺倒のものではなく、アルバイトなどで様々な社会経験を積んだそうである。色々なアルバイトを通しての経験が、今の仕事にも活かされているそうだ。その時期に貯めた資金を用いて、フランスに留学するなどの行動力には感心させられた。中山様のお仕事には、ベトナム人と日本人研究者の仲介というのがあり、文化の違いからくる考え方の違いにより、多大な苦労があり、それをいかにしてすり合わせていくかということが大事とのことである。臨機応変に、しっかりと考えて行動していくことが肝心であるとおっしゃっていた。

中山様の学生時代の生活については、我々の現在の生活と比べると驚くことが多かった。特に、学業以外の面でも積極的なアプローチを行うことにより社会経験を多く積むということは、大学生のうちにできれば後の人生に大きなプラスになると感じられた。学業のみに専念することも選択の一つではあるが、社会経験を積み、狭い学生内での常識にとらわれず世の中を広く見るようになることも、自分の強みを増やす一つの選択ではないかというようにお話を伺って感じた。このように、参加生は自分にはない広く新しい考え方をたくさん知ることができたのではないかと思う。

（燃料電池研究棟予定地前にて中山様と）

©2016 国立大学法人北海道大学

Seed to Table

代表の伊能 まゆ様のご講話と農村への訪問

Seed to Table では、代表の伊能様からお話を伺うほかに、実際に農村に訪問し、そこで農業を営む方々からもお話を伺った。伊能様はアヒル銀行やウシ銀行と行った貧困層の人たちに、家畜を貸す事業を営んでいる。その貸し与えられた家畜を有効活用してもらうためにも、農家の人たちへの指導が必要不可欠であり、苦労も多いそうである。多くの農家は、はじめは利益を出すことができず、返済ができない中で、特別に利益を挙げることができた農家の人たちのノウハウを皆で共有するなど様々な工夫が行われている。活動がうまくいかなかった時には、伊能様は、原因を突き止め、合理的に解決策を考え出し、改善していこうとしてきたお話がとても印象的だった。貧困層の人たちにとって、ちょっとしたことを考えつくことが難しく、そういった点に気付いて、対処していくことが必要とのことである。農村訪問では、農場を見学させてもらい、また農家の方々と共にベトナム料理のバインセオ作りに挑戦した。その後、一緒に食卓を囲み、バインセオや他に振舞っていただいた料理を楽しんだ。

御講話及び農村への訪問を通して感じたことは、多面的な視点を持つ必要があるということである。国際協力について、日本人の視点から貧困の方などを見て、同情の気持ちから、物をあげたりインフラを整備してあげたりすることが大切だという考え方をしていた参加者もいたが、それは違うということに気付いた。地域の現状を把握し、貧困の方も金銭的に自立をすることを手助けするのが、本当の意味での支援なのではないかと実感した。メンバー全員が、現地の農家訪問を通して、支援の実際と農家の皆様の温かさを知り、かけがえのない１日になったと思う。

（伊能様と歓迎してくださった皆さんとともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

住友商事株式会社（CJ-SC GLOBAL MILLING）

CJ-SC GLOBAL MILLING 副社長の佐々木 拓郎様によるご講話

住友商事株式会社の訪問では、佐々木様からお話をして頂いた。佐々木様の住友商事での働き方は、型にはまらなく、大変参考になるものであった。総合商社では定型業務のみならず独創性（ビジネス創出力）が要求されるとのことである。プライベートと仕事とをきちんと分け、仕事はなるべく定時で終え、プライベートの時間は資格試験の勉強をしていた時期もあったそうだ。激務という印象がある商社において、できるだけ残業をせずに働いてきたというお話には驚かされる。限られた時間の中で、いかに高いパフォーマンスを発揮できるかということを徹底して考え抜きいてきたそうである。バードフレンドリーコーヒーにおける契約では、まるで自然のままであるかのような農園に感銘を受け、自ら交渉に赴いたとお話頂いた。商社を選んだきっかけとしては、海外で働くことへの憧れというものがあったそうだが、年数を重ねる毎に段々と海外勤務への憧れのみならず、自分で考えて仕事を創り出していく商社の魅力にとりつかれていったそうだ。経験によって培われた直感的な判断力と、それを補充する客観的なビジネス知識を組み合わせる仕事のスタイルを模索してきて今に至るそうであるが、自分がやりたいと思うものを持つことが大切であるとのことである。また、長期出張による英語の使用やメキシコにおいてスペイン語を学ぶための語学研修を経験したことにより、語学については自然に身についたとのことであった。このことから、海外で通用するための語学力を身につけるためには、実際に海外で英語やその他の言語を使って覚えることが近道であるというように感じた。

メンバー一同、ウィットに富んだお話に感服し、今後の勉強の糧となった。

（佐々木様とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

電通メディアベトナム

デジタルビジネスコンサルタントの杉野 寛樹様のご講話

電通メディアベトナムに訪問し、杉野様からお話をして頂いた。電通メディアベトナムとは一言で表すとメディアビジネスに主軸を置いた広告代理店である。広告代理店とは、何をやる会社なのかというのは、漠然としたイメージは持っていても、はっきりとは理解している人は少ないように思われた。杉野様によると、広告代理店は情報に関わるあらゆる仕事をするものであるとのことだ。分かりやすい具体例を挙げながらの説明からは、情報の伝え方が大事だということを学ぶことができた。杉野様はデジタルビジネスコンサルタントであり、WEB メディアの収益向上や非 WEB メディアの WEB 化などをサポートする仕事をしているとのことである。ベトナムに来られたきっかけは、働く場所に特にこだわりがなく、日本ではできないようなチャレンジがしたかったことだとおっしゃっていた。

お話を伺い、海外でも自信のもてるポイントがあればビジネスで十分に通用するということ、働いていく上で重要なことは海外でも同じだということを感じた。また、日本でできないことを考えるというのは、日本のみに向いた狭い視野では知ることができないようなやりがいのある仕事に出会える可能性が増えるということにつながると感じられた。これまでのキャリアデザインでは、国内外の仕事において、自分の知っている領域内でのみ職業選択をしてしまっていたが、新しいことに目を向けたい、新しいことを始めたいと考えたら、覚悟とやる気があればできる可能性があるということを強く感じられたという参加者もいた。

（杉野様とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

Pizza 4P's

オーナーの益子 陽介様、高杉 早苗様によるご講話

Pizza 4P’s で食事を頂きながら、益子陽介様と高杉早苗様から Pizza 4P’s を創業なさったきっかけなどについてお話をしていただいた。益子様は、サイバーエージェントで広告代理店部門においてベストプレイヤー賞に輝くなど活躍されていたが、社会意義があることがしたいという思いで現職のレストラン経営を始めたそうだ。ベトナム人従業員と日本人の考え方の違いなど、苦労が絶えなかったそうであるが、実際に Pizza 4P’s で食事をする中で洗練された接客には驚かされた。この高いクオリティーに至るまでは、細かいところからの指導など様々なことが必要とされたそうだ。自家製チーズの勉強を独学で始め、ベトナム初のモッツァレラチーズの生産販売を行うようになった。日本随一のチーズ職人にベトナムに来て、チーズを作ってもらえないかと頼んだそうだが、断られ、YouTube などで勉強をなさったそうである。大学時代はバックパッカーとして世界中を旅したり、一時期はベジタリアンであったり、断食をしていたりと様々な経歴をお持ちで、視野の広さというものを感じさせられた。

お話を伺っていく中で参加生一同は、何かビジネスを行うためにはまずきっかけが重要であること、人々との縁がそれを成し遂げるための大きな助けとなることを学んだ。また、働いていく中で自分の進路について再考し、新しいことを始めるというのも選択肢の一つにあるのだということを実感した。我々も今後の人生においてはそのような局面に立たされる可能性は十分にある。その時、お話を伺って感じた上記のようなことを参考に、人生を全うできるような選択ができればよいというように感じた。

（益子陽介様、高杉早苗様とともに）

©2016 国立大学法人北海道大学

自由課題活動

自由課題活動とは、各自でテーマを設定して行う自由研修である。シンガポールとホーチミン市で、合わせて約 60 時間を自由課題活動として使うことができた。自由課題活動を通して、２国について様々な視点で観察することができた。観光地や市場、街の様子を見ただけでも、日本と違うところはたくさんあり、文化や技術を見学できる場所を訪れると、土地の特徴などを実際に感じ取ることができた。我々はアジアに住む一員でありながらも、日本周辺の国々しか見渡せていなかった可能性が高いが、自由課題活動で、各々が興味ある事柄を調べることを通して、訪問国について具体的に知ることができ、グローバルな視点を持ったり自らがなすべきことを考えたりするきっかけとなった。各日ごとに行先に合わせてグループ編成を行ったので、行先は多様であったが、ここではその中から選んだものについて、３つの側面に分けて紹介したい。

・NEWater Visitor Centre（シンガポール）「シンガポールに根ざした技術」

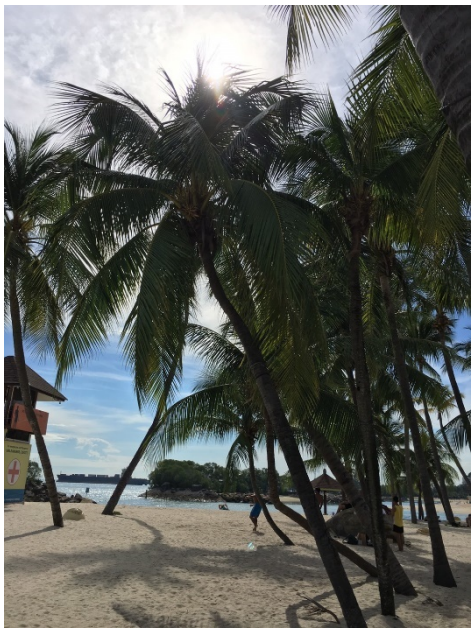
シンガポールは小さな島国であるため、大きな河川や貯水に必要とされる土地が少ない。かつてはマレーシアからの水の輸入に頼ってきたが、マレーシアからの継続的な輸入が保証されないために、新しい水資源の開発に力を注いできた。今回訪問したのは、シンガポールの水資源を統括・管理する公共機関「PUB」が運営している、NEWater の製造過程について見学できる施設である。NEWater とは、最新の技術を用いて、生活用水などの下水から直接飲料水にしたものである。下水から直接作られた水を飲むことに不安を感じると思うが、膜処理技術や紫外線を用いた消毒などの過程を経ているため、安心して飲料できるとのことである。実際に NEWater をボトル詰めしたものを頂き試飲してみたが、味は普通の水と変わらず、特に違和感はなかった。この施設への訪問を通して、国の問題を解決するために特有の試みがなされているということを実感することができた。

©2016 国立大学法人北海道大学

・マリーナベイサンズ、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、セントーサ島など（シンガポール）

「観光産業」

シンガポールは観光に力を入れている国であり、熱帯地域であることの特徴を生かしたものもあった。例えば、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイでは熱帯特有の植物を数多く見ることができ、我々が見たことのないような興味深い形をした植物を観察できた。セントーサ島についても、限られた敷地ではあるがテーマパークやビーチがあり、効率的に楽しむためにモノレールやバスなどの交通機関が整えられていた。実際に観光地を巡り、その実態を観察してみることにより、シンガポールという国について理解を深めることができた。



・ホーカーズ、フードコート、スーパーマーケット（シンガポール・ホーチミン市）

「地元の方の生活の一部を間近に見る」

研修中、食事をするためにホーカーズやフードコート、スーパーマーケットに立ち寄る場面があったが、そこでは現地の方々の生活について、観光地を廻った時以上に知ることができた。例えばシンガポールでは、注文時、初めは中国語で聞かれることが多かったため、公用語に英語があるが街中では中国語が広く使われているのだということに気付くことができた。また、多くの種類の料理から自分が好きなものを安く買うことができたことから、シンガポールは多民族な国家であったり、共働きのため家で料理をあまりしなかったりするということを実感できた。このように、食文化以外の面でも地域の文化・特色について新たな発見が得られた。

©2016 国立大学法人北海道大学

右下はホーチミン、それ以外はシンガポールにて撮影。

左上から、おかゆ、海鮮面、ドリアン、フォー。

©2016 国立大学法人北海道大学

体験談

・参加生より

・総合文系１年　篠田まどか

今回の FSP の活動の中で最も印象に残っているのは現地の学生との交流です。ベトナムではお互い母国語ではない英語でのやりとりだったこともあって、意思疎通ができたときはとても嬉しく感じました。

現地で交流できる時間は短いですが、SNS などで繋がっていられるので自分のネットワークを広げられたと思います。

・総合理系１年　大谷高史

海外に興味がある。将来海外で働いてみたい。そんな風に自分の将来をぼんやりと思い描いていました。ただ、日本に留まって想像を膨らましたところで実際に行ってみないと何もわからないということを学びました。迷ってる時間があるなら即行動に移す。将来のことをゆっくり考えていられる大学生活なんてあっという間ですからね。

このプログラムに参加したことによって、自分の将来について何か手がかりを掴むことができたという人や、自分のやりたかったことを実現するためには何が必要なのかわかったという人など、将来のキャリア形成のために役立ったという人が多くいた。

・参加生の失敗談など

「自分は大丈夫だろうと下痢止めを持っていかなかったら、ベトナムで下痢になってしまい大変だった。」「お店でお金をぼったくられてしまった。」など、海外旅行でよくありがちな失敗談から「英語力不足のおかげで、なされるべきコミュニケーションがうまくとれなかった。」「英語で相手の話がよく聞き取れなかった。」など現地の学生との交流から、自分たちの英語力の不足・言葉の重要性などを感じた参加生も多かった。

©2016 国立大学法人北海道大学

次回参加者に向けて・アンケート結果

・アンケート実施結果

（１）FSP アジア参加生の情報

参加人数　計 19 名（　内　｜１年生・・・11 人　２年生・・・8 人｜ 男性・・・14 人　女性・・・5 人｜総合文系・・・２人　経済学部・・・５人 総合理系・・・３人　医学部・・・２人　工学部・・・３人 水産学部・・・１人　農学部・・・３人　）

（２）FSP 参加生の海外経験

留学経験がある・・・0% 観光などで海外に行ったことがある・・・53.9% 海外に行ったことがない・・・47.1%

FSP アジア参加生の約半数がこのプログラム以前には海外経験が全くないと答えている。はじめての海外渡航の良い機会としてこのプログラムに参加した人も多いようである。

・次回の参加を考えている方へ

ファースト・ステップ・プログラムは、海外留学をしてみたいがまだどんなものかよくわからないため不安だという人、将来は海外で働く・研究することも視野に入れているという人、あるいは海外経験が全くないのでこれからの将来のために是非海外で色々学んでみたいという人に絶好のプログラムだと感じた。それは、はじめて海外に行く人が不安にならないように、また充実した研修を送れるように、準備授業をしっかりと行った上で海外に出発したからである。そのためにやるべき課題があったり、研修中もグループ内外でトラブルが起きたり、人によっては体調を悪くすることもあり大変なことも多くあったが、これから残りの大学生活を過ごす上でとても貴重な素晴らしい経験となるはずである。参加するための敷居もさほど厳しくはないので、少しでも興味のある方は、帰国報告会や次回以降の FSP 募集説明会などに是非とも行ってみてほしい。

©2016 国立大学法人北海道大学

まとめ

・全体の感想

普段の大学生活ではまず経験することのないことを経験することができた２週間であった。日本と近いところに位置するシンガポールとベトナムだが、日本との違いは大きく、それゆえに多くの刺激を受けた。この研修を通して、我々は日本という国をより客観的に見ることができるようになったと思っている。訪問国、訪問させていただいた企業・組織ではすべての参加生それぞれが違った刺激を受け、多くの経験をしたのではないかと思う。皆がそう思うことのできる充実した内容であった。夏休みという長く自由な時間をこのような素晴らしいプログラムにあてられたことに満足している。

ファースト・ステップ・プログラムの意義はこれだけではない。今後、私たちがそれぞれ自分なりの「セカンドステップ」を見つけ、その実現の助けとなるような機会となったと思う。メンバー一同、今回の海外研修で終わることなく、積極的な姿勢で海外と関わっていきたい。

・サポートして頂いた皆様への感謝

今回の FSP アジアは決して私たち参加生だけでは実現しませんでした。忙しい中、時間を都合していただいた訪問先企業、組織の皆様や色々なアクティビティを用意して歓迎していただいた訪問大学、ポリテクニック、高校の学生と先生、ナビゲートしていただいた JTB の方、それから引率していただいた川端千鶴さん、渡辺明さん、後藤田明子様、また FSP アジア全体を通してサポートしていただいた国際連携機構の先生方に今一度感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

©2016 国立大学法人北海道大学

第 16 回 FSP アジア　全体報告書

平成 28 年 10 月 20 日

編　　集：　第 16 回 FSP アジア　記録広報班

（笹木健太、奥地諒太、草野敦大、奥田晃崇）

問合せ先：　北海道大学国際連携機構　国際オフィサー室

電話　（011）706-8040/8032

Email:　ambitious@oia.hokudai.ac.jp

Facebook：　https://www.facebook.com/1ststepprogram